資料３－２　第　１　回　　学校運営委員会　会議録（合同開催用）

提出E

学校名	野幌中学校	委員長名	瀧口　孝司	（任命した）委員数	９	内、出席者数	６
学校名	東野幌小学校	委員長名	柿原　正美	（任命した）委員数	９	内、出席者数	７
学校名	野幌若葉小学校	委員長名	小田島　篤	（任命した）委員数	８	内、出席者数	３
学校名	野幌小学校	委員長名	齊藤　慶一	（任命した）委員数	１０	内、出席者数	５

月日	令和8年10月14日（水）	時間	15：00～16：00	会場	野幌中学校
会議の周知方法で該当するものに〇をつけてください。　ホームページ（〇）、学校便り（〇）					
右の２項目に該当する場合は〇を記入してください。　給食試食（　）、授業参観（　）					

傍聴人がいる場合、以下に記入してください。いない場合は、空欄で結構です。

傍聴人	０　人	内訳	保護者　人	地域住民　人	その他　人

・当日の議案書及び会議録を１部、提出してください。（規則第１５条による）
・この書式の行数等は適宜変更して構いません。

（１）野幌中学校区各学校教育活動紹介



（２）小中一貫教育の紹介
・目指す子ども像、所属部会等について
・目指す子ども像、所属部会等について
・NRT学力検査における「1・2」段階について
・児童生徒アンケート共通項目「夢や目標をもっている」の割合

（３）熟議題①目指す子ども像「夢に向かい 行動する子」を育成するために大切な事

・発達段階による意識のギャップ: 小学校段階では概ね夢や目標を持っている割合が高いが、中学校段階になると達成率が低下。
・「リアルな数字」と現実的課題への直面: 中学校での入試や成績等の数値に直面することで、「やりたくてもできない」と自身の可能性を諦めてしまう傾向があるのはないか。
・「否定されるのではないか」「馬鹿にされるのではないか」という不安から、自身の意見や夢を周囲に表現しにくい環境が存在する。
・先回りした知識の教え込みを避け、実体験や探究学習を通じた気づきと教科知識をリンクさせることで、学びを深い財産にする。
・単に将来の具体的な職業を固めることのみを求めず、現在何かに夢中になる姿勢や得意分野・個性を伸ばす関わりを大切にする。

（４）熟議②えべつスマート４RULES

・大人が一方的に与えるのではなく、児童生徒自らが生活状況を振り返り、議論して決定することでルール遵守の意識が高まる。
・改定したルールについて、中学生が小学校へ赴いて説明する機会を設けるなど、子ども主導の啓発・共有活動を推奨する。
・各家庭の状況（共働き、塾など）に応じた柔軟なルールづくりや、使用条件に関する親子での十分な話し合い・約束が必要である。
・動画の無限スクロール等による依存傾向を防ぎ、自律的に利用をコントロールできる力を養う。